

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3893600027
法人名	株式会社 フォースコーポレーション
事業所名	グループホーム ゆうなぎ
所在地	愛媛県喜多郡内子町城廻613-1
自己評価作成日	平成 23 年 8 月 24 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年10月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・健康管理に努め、主治医、家族との連携を図っている(食事、バイタル) ・食事のメニューも多く、みなさん美味しいと言われている ・本人がしたいように自由に過ごされていると思う
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

中学校の宿舎であった建物を改修して事業所として運営している。「笑顔で穏やかなくらし！」という理念を基に、行動目標が立てられ、質の高いケアが提供できるよう日々努めている。管理者は、職員とのコミュニケーションを密にとるよう心がけており、職員同志の仲も良い。脳のトレーニング等、学習療法を取り入れ、皆で楽しめるように工夫しながら利用者本位の支援に取り組んでいる。すぐ隣に保育園があり、日常的に交流が行われている。職員は、利用者が穏やかに過ごせるよう、日々の健康管理に努めている。
--

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します									
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と		
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと		
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと		
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように		
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度		
			3. たまにある				3. たまに		
			4. ほとんどない				4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない		
			4. ほとんどいない				4. 全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が						
			2. 利用者の2/3くらいが						
			3. 利用者の1/3くらいが						
			4. ほとんどいない						

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ゆうなぎ

(ユニット名) 南棟

記入者(管理者)

氏名 緒方 久美子

評価完了日 平成 23 年 8 月 24 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念、行動目標を作り、毎日朝の朝礼で復唱している。職員全員にアンケートを取り、理念、行動目標の見直しを行っている。また、各所に掲示していつでも見れるようにしている。	
			(外部評価) 職員全員で話し合って作り上げ、利用者が地域の中でその人らしく暮らしていくことを支える理念となっている。また、理念を踏まえた具体的な行動目標を事業所内に掲げて朝礼で復唱したり、毎月のカンファレンス等で職員間で意識付けて、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の自治会には入っており、地域の行事(運動会・掃除、御神楽、回覧板等)に参加している。地域のサロンとの交流会、保育所との交流会(運動会・毎月お誕生会・おまつり・お楽しみ会)など参加させて貰って交流している。	
			(外部評価) 自治会に加入し、地域活動に積極的に参加している。事業所主催の「ゆうなぎ祭り」には、地域の人達に参加してもらえるよう声かけをしている。利用者の家族やボランティアグループ、保育所等の協力があり、150名程の参加で賑わうなど地域との交流は活発である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 内子町連絡会による、認知症講演会を6月に行った。地域、各関係の方188人の参加があった。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議を定期的に行い、情報交換を行っている。外部評価後は、結果を報告しており、会議で出された意見は職員で話し合い、サービス向上に活かしている。会議は、話し合いだけでなく、講演会、運動会、ゆうなぎ祭りを利用した会議も行っている。	
			(外部評価) 運営推進会議の年間計画を立て、計画的に開催している。事業所の実態報告や学習会を行ったり、避難訓練等の行事と合わせて開催する等、工夫をしている。参加者から意見を聞き、その結果を議事録に残しサービス向上に活かしている。	防災が議題の運営推進会議には消防団の方に参加を依頼する等、専門的な意見や提案が出され、事業所が提供するサービスの質が向上する機会となるよう、より一層の取組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 推進会議の参加、GH連絡会などに必要時は参加して頂いている。入居者の入退去時、更新時、介護計画書等を提出し、情報交換を行っている。必要なことは、連絡を取り連携を図っている。	
			(外部評価) 運営推進会議に行政担当職員や地域包括支援センター職員が参加しており、利用者の生活課題等について相談する等、連携を深めている。運営推進会議の学習会の講師を依頼することもあり、良好な関係が構築されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 研修会に参加した職員が、職員会議で報告し勉強会を行っている。日頃のケアの中で、拘束をしないケアを話し合っている。入居者は自由に生活出来るように、環境を整えている。マニュアルも作成しており、各棟でいつでも見れるようにしている。	
			(外部評価) 職員は身体拘束の対象となる行為を正しく理解しており、利用者の人権を守りながら自由でのびやかな暮らしが送れるよう支援している。また、言葉での拘束についても、職員全員で意識しながら適切な対応ができるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員会、カンファレンスで、入居者に対しての言葉使いや、介護態度について、いつも話し合っている。心理的虐待にならないように防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加し勉強会を行っている。家族からの要請がある時は、管理者が対応を行っているが、職員も理解できるように説明を行っている。今後必要時は、関係機関との連携を図って行きたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、契約書の説明を行っている。事業所のケアに関する取り組み、利用料金、起こりうるリスク、看取りに関する事など医療連携体制についても、説明をおこない、同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居者は、日頃のケアのなかで、意見を聴いている、家族は、面会時を利用して、意見、要望を聴いている。家族会も行い、会議の中で意見、要望を聴いている。各棟、玄関先に意見箱を設置し、投稿して貰うようにしている。 (外部評価) 運営推進会議や家族会で意見や要望を出してもらったり、家族の面会時等に意見を聞き取るよう努めている。遠方に住んでいる家族には介護計画やゆうなぎ通信を定期的に送る際に、一緒に意見や要望を記入できる用紙を同封している。利用者のささやかな希望にも対応するよう心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者は、職員会、カンファレンス時に意見や提案を聴きようにしている。職員からアンケートを取り、意見、提案、要望を聴くようにしている。代表者を交えて、食事会をする機会もあるが、職員との関わりの機会が少ない。 (外部評価) 日々の中で気が付いたことは、各ユニットの主任を通じて管理者に伝わる仕組みになっている。管理者は日々のケアに携わっており、職員とコミュニケーションがよく取れている。外部で行われる研修会等には可能な限り参加できるよう調整している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 希望休、有給休暇、時間外手当の支給はある。資格取得に向けた支援はおこなっている。休憩室を設け、休憩時間にゆくり休める体制を整えている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員の力量に応じて、研修を受講できるようにしている。研修後は、報告書を提出し、職員会議で発表し、職員全員が勉強出来る体制を整えている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 代表者は機会が少ないが、管理者は、交流の機会があり行っている。GH連絡会に参加し、意見交換、勉強会をおこなっている(運動会・認知症講演会・勉強会)。また、他の市町村の同業者との連絡も時々行い、情報交換を行っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前には、自宅、病院等に事前調査に面談している。本人の生活状況、身体状況、服薬等、家族関係など細かく、本人、家族に聴きとり情報を得ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前には、本人、家族の思いが分かるように、センター方式のアセスメントを渡し記入してもらう家族もある。記入出来ない家族は、管理者が、聴きとりを行い、本人、家族の要望を聴いている。職員にも、情報を伝え、事前に話し合っている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入所前には、居宅のケアマネからの情報を聴いたり、本人、家族の思い、出来ること、出来ない事、好きなこと、好きな食べ物など、馴染みの事など、いろいろ聴きとり、必要なサービスに繋げるようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 入居者のペース、状態に合わせてお互い出来ること、出来ない事、好きなことを把握し、笑顔で穏やかに生活出来るように関わりを築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月、おたよりを出したり、面会時には、本人の状況を伝えたり、介護記録を見て頂いている。面会時は、お部屋で、ゆっくり、自由に話し過ごして貰うことで、本人を支えて行くための、関係を築くようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 親戚の方や、知人が面会に来られ、自由に過ごされている。馴染みの美容院に行かれたり、お墓参りに行かれる方もおられる。家族と敬老会に参加されたり、自宅に帰ったり、外出される方もある。 (外部評価) 地域の敬老会に参加したり、馴染みの美容室へ家族の協力を得ながら通う等、馴染みの人や場所との関係が継続できるよう支援している。また、併設のデイサービスや近くの保育所等との交流を積極的に行い、新たな馴染みができるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の顔馴染みの関係は出来ており、仲良く、自由に過ごされている。個人の性格を考慮し、利用者同士の関係がうまくいくように、職員が調整薬となっている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じて相談あれば、家族と連絡している。年賀状、暑中見舞い、行事の招待状を送っている。推進委員の協力をお願いし継続して参加して頂いている方もある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) センター方式の「私の姿と気持ち」を利用し、本人の不安、苦痛、嬉しい事、願い事を記入し、本人の思いを知ろうと努めている。意思疎通困難な方場合は職員本意にならないように努めて対応している。	
			(外部評価) 利用者に関わる時間を大切にし、一人ひとりに向き合いながら思いや希望を聞き取っている。把握した内容は申し送りノートに記入して、職員間で共有している。また、面会時に家族から聞き取りをする等より多くの情報を収集し、利用者本位のサービスが提供できるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時、今までの生活状況等を、本人、家族より聴きとったり、ケアマネより情報収集している。自分が使っていた馴染の物を持って来て頂いている方もある。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 入居者一人一人の健康管理、生活リズムを理解し安全に生活出来るように努めている。気づきノート、申し送りノート活用し、職員全体で把握できるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人、家族には、日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、くみ取るようにしている。定期的にカンファレンスを行い、現状の課題、ケアについて話し合い、意見交換を行っている。 (外部評価) 利用者や家族の意向を聞き、きめ細やかなアセスメントをし、担当職員を中心に意見を出し合い介護計画を作成している。作成した介護計画は、家族に説明し同意を得ている。毎月のカンファレンスで状況確認するとともに、利用者の状態に応じて計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日計画書に添った、介護記録を個別に取り、日頃の暮らしの様子、身体状況及び、本人の言葉、エピソード等を記録するようにし、定期的、状態変化時介護計画の見直しを行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人、家族の状況の応じて、通院、送迎など必要な支援は柔軟に対応している。家族への食事提供、入居者の、外部の方による、マッサージも行っている方もある。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の方との交流があり、顔馴染みの関係が出来ているので、無断外出されいている、入居者さんにも、声をかけて連絡して貰ったり、連れてきて頂くこともある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医があり、体調に応じて受診、往診を受け ている。また、家族の希望する他の医療機関に受診し たり、病状に応じた、専門医に受診している。 (外部評価) 入居以前からのかかりつけ医や希望の病院が受診でき るようにしている。受診介助は、職員が行っており、 必要に応じて家族にも同行してもらっている。協力医 による定期的な往診や、専門医への受診等、適切な医 療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 協力医療機関の看護師に、毎週健康管理(バイタル チェック・血糖値測定・必要に応じて点滴等)、医療 面での相談、助言、医師との連携など、対応してい る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、たびたび面会にいきようにし、本人の状 態を看ている。入退院時には、医療機関との情報提供 を細かく行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時に、施設の方針を説明し、同意を得ているが、 重度化した場合は、再度、本人、家族、医師、職員が 連携を図り安心して終末期を迎えられるように職員との 話し合いも行い取り組んでいる。昨年、今年にかけて 二人看取りを行った。 (外部評価) 入居時に看取りに関する指針に基づいて説明してい る。マニュアルを整備し、協力医や関係機関との医療 連携体制を整えている。状態変化時には、あらためて 家族と話し合いの機会を持ち意向を確認しながら、利 用者本位の支援に取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 年に1回全職員が、救命救急法を受講している。緊急時対応マニュアル、連絡網を作り、各棟に掲示して対応出来るように、周知徹底を図っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に防災訓練を実施している。地域の方、消防署、運営推進委員との訓練も行った。昼夜を問わず、施設内の点検を行っている。職員全員で訓練できるように取り組んでいる。 (外部評価) 消防署の協力を得て、年2回の防災避難訓練を実施している。運営推進会議を活用して地域の消防団や地域の人達と共に訓練を実施できるよう協力体制を築いている。災害時のマニュアルの整備や備蓄品を確保する等、非常災害対策の強化を推進中である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人一人の性格や個性に合わせて、プライドを傷つけないような言葉かけや、対応をしている。その人に合った声のトーン、優しいことばかけ、さりげない介助に心掛けている。 (外部評価) 職員は言葉遣いや声の大きさ等に配慮している。一人ひとりの利用者の人格を尊重し、特に排泄や入浴時には誇りやプライバシーを損なう事がないよう配慮しながら、日々のケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で、(レク参加、行事、入浴・食事等)一人一人に声かけ、無理強いせず、自己決定出来るように声かけ支援している。難聴の方ひは、ボードを使用し決めて貰うこともある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ホームでの一日の流れは決まっているが、一人一人、起床時間、食事時間など、体調に配慮しながら、その日の本人の気持ちを尊重し支援している。日中、部屋で過したい方は、自由に過して貰うようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 希望に応じて、行きつけの美容室に行き、パーマ、毛染めをされている。美容室に行かれない入居者はホームで行っている。髭剃り、爪切、出来ない方は介助している。洋服を選べない方もあるが、その人に合った、洋服をきて貰うようにおしゃれをして貰っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員と、入居者が同じテーブルを囲んで話しながら食事をしている。(介助の方もいる) ホームで作った野菜を収穫し食べたり、誕生日には、本人の好きな物を食べて貰ったり、外食時は、好きなメニューを注文されている。出来る方は、食事準備、片づけを職員と一緒に手伝って貰っている。 (外部評価) 利用者同志の会話もはずみ、職員と共にテーブルを囲んで楽しく食事ができている。支援の必要な利用者の横に職員がさりげなく座り、優しく声かけをしながら介助がされている。外食等も企画され、利用者の楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 各自の健康状態を考慮して、食事量、薄味(減塩)、刻み食トロミを使い工夫している。食事摂取量、水分量、は個別に記録している。本人が好きな飲み物は、個人で買われている方もある。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行い、本人の能力に応じて介助している。歯冠ブラシ、スポンジなど本人に状態に応じた物を使用している。週に1～2回ポリデントを使用している。夜間時は、殆ど方は外して休んでもらうようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日中はトイレに排泄を促すことを基本としている。排泄チェック表を利用し、一人一人の排泄パターンに合わせて、声かけ、誘導している。夜間時は、必要に応じて、オムツ、ポータブルトイレ、尿器を使用したり、トイレ誘導を行っている。	
			(外部評価) 排泄チェック表を活用しながら、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない声かけで誘導している。日中はトイレでの排泄を基本に支援している。家族と協力しながら利用者に応じた支援を行うことができている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) なるべく乳製品や、食物繊維の物を多く摂ってもらうようにしている。毎日体操、散歩を行っているが、排便が困難な方は、主治医に相談している。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴は、毎日午後から行っているが、体調、入浴の希望を確認し、一人ずつゆっくり入って貰っている。一人で入りたい方は、外で見守りすることもある。	
			(外部評価) 毎日入浴できるようにしており、利用者の希望に応じて気持ちよく入浴ができるよう努めている。入浴の苦手な利用者には、声かけやタイミングを工夫し、無理強いをすることなく心地よい入浴ができるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日々の睡眠状態を把握し、レク、散歩、手作業い参加して貰ったり、生活リズムを整えるように努めている。入居者の意向や健康状態に合わせて、日中休んで貰ったりしている。	
			(外部評価)	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 各自の薬の処方箋 g あり、用途や、副作用を理解している。いつでも職員が見れるようにしている。病状変化があった場合、主治医との連携を図って相談している。薬変更時は、申し送りに記入し共有している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その人に応じて、手伝いして貰ったり、カラオケをしたり、ゲーム参加や皆で歌を唄って日中楽しく過して貰うようにしているが、健康状態に応じては、参加されないかたもある。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ドライブ、お花見、外食、七夕見学等に出かけたり、毎日、買い物に行かれている。家族の協力を得て、外出される方もある。	
			(外部評価) 事業所の敷地が広く周囲には緑が多いため、日光浴や気分転換ができる。職員は利用者と共に食材の買い出しに出かけたり、利用者の希望を取り入れながら外食やドライブ等を日常的に行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の管理が出来る方は自分で所持されている。使われなくても安心されている為持っておられる。殆どの方は、家族と相談し、ホームで預かっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 職員が年賀状、暑中見舞いを用意し、一言書かれるかたもある。手紙は殆ど書かれ無くなっている。電話をかけたり、かかってきた場合は話しされている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 食堂内の壁には、季節に応じた飾りをつけ、写真を飾っている。玄関先には、季節の花、野菜を植えたり、花を生け飾っている。場所が分かるように、表示をしている。（食堂・居室・トイレ・浴室・エレベーター等）	
			(外部評価) 居間にはソファを置き自由にくつろぐことができる。室内の明るさや温度等、適切に保たれ、利用者は落ち着いた環境で過ごすことができている。壁には、季節感のある飾り付けや、行事等の写真が展示され、居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 廊下、玄関先には、自由に座れるベンチ、椅子を置いている。食堂内には、皆は座れるように、ソファを置き、話しが出来るようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には、馴染みの家具、テレビ、ラジオ、コタツ、タンスを満ち込まれている方もおられる。居心地良く過して貰えるように、本人、家族の写真、塗り絵を飾ったりしている。居室のベランダで、花の水やりされている方もある	
			(外部評価) それぞれ使い慣れた馴染みの家具等が持ち込まれ、家族と一緒に過ごした懐かしい思い出の写真や花が飾られており、利用者が落ち着いて生活できるよう配慮されている。広さも十分あり、居心地よく過ごせる部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 各自に応じて、老人車、杖、車椅子、歩行器を使用されている。身体状況に合わせて、ベッドや、ポータブルの設置を検討している。ベッドでの習慣が無い方、転倒防止の為、床で休んで貰ったりする方もある。階段はあるが、手すりも設置しており、段差も無くしている。安全で出来るだけ、自立に向けた生活が維持できるように努めている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3893600027
法人名	株式会社 フォースコーポレーション
事業所名	グループホーム ゆうなぎ
所在地	愛媛県喜多郡内子町城廻613-1
自己評価作成日	平成 23 年 8 月 24 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年10月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・健康管理に努め、主治医、家族との連携を図っている(食事、バイタルチェック) ・食事のメニューも多く、みなさん美味しいと言われている ・本人がしたいように自由に過ごされていると思う
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

中学校の宿舎であった建物を改修して事業所として運営している。「笑顔で穏やかな暮らし！」という理念を基に、行動目標が立てられ、質の高いケアが提供できるよう日々努めている。管理者は、職員とのコミュニケーションを密にとるよう心がけており、職員同志の仲も良い。脳のトレーニング等、学習療法を取り入れ、皆で楽しめるように工夫しながら利用者本位の支援に取り組んでいる。すぐ隣に保育園があり、日常的に交流が行われている。職員は、利用者が穏やかに過ごせるよう、日々の健康管理に努めている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいの			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいの			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			○ 3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			○ 2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			○ 2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			○ 2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ゆうなぎ

(ユニット名) 北 棟

記入者(管理者)

氏 名 緒方 久美子

評価完了日 平成 23 年 8 月 24 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念、行動目標を作り、毎日朝の朝礼で復唱している。職員全員にアンケートを取り、理念、行動目標の見直しを行っている。また、各所に掲示していつでも見れるようにしている。	
			(外部評価) 職員全員で話し合って作り上げ、利用者が地域の中でその人らしく暮らしていくことを支える理念となっている。また、理念を踏まえた具体的な行動目標を事業所内に掲げて朝礼で復唱したり、毎月のカンファレンス等で職員間で意識付けて、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の自治会には入っており、地域の行事(運動会・掃除、御神楽、回覧板等)に参加している。地域のサロンとの交流会、保育所との交流会(運動会・毎月お誕生会・おまつり・お楽しみ会)など参加させて貰って交流している。	
			(外部評価) 自治会に加入し、地域活動に積極的に参加している。事業所主催の「ゆうなぎ祭り」には、地域の人達に参加してもらえるよう声かけをしている。利用者の家族やボランティアグループ、保育所等の協力があり、150名程の参加で賑わうなど地域との交流は活発である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 内子町連絡会による、認知症講演会を6月に行った。地域、各関係の方188人の参加があった。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議を定期的に行い、情報交換を行っている。外部評価後は、結果を報告しており、会議で出された意見は職員で話し合い、サービス向上に活かしている。会議は、話し合いだけでなく、講演会、運動会、ゆうなぎ祭りを利用した会議も行っている。 (外部評価) 運営推進会議の年間計画を立て、計画的に開催している。事業所の実態報告や学習会を行ったり、避難訓練等の行事と合わせて開催する等、工夫をしている。参加者から意見を聞き、その結果を議事録に残しサービス向上に活かしている。	防災が議題の運営推進会議には消防団の方に参加を依頼する等、専門的な意見や提案が出され、事業所が提供するサービスの質が向上する機会となるよう、より一層の取組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 推進会議の参加、GH連絡会などに必要時は参加して頂いている。入居者の入退去時、更新時、介護計画書等を提出し、情報交換を行っている。必要なことは、連絡を取り連携を図っている。 (外部評価) 運営推進会議に行政担当職員や地域包括支援センター職員が参加しており、利用者の生活課題等について相談する等、連携を深めている。運営推進会議の学習会の講師を依頼することもあり、良好な関係が構築されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 研修会に参加した職員が、職員会議で報告し勉強会を行っている。日頃のケアの中で、拘束をしないケアを話し合っている。入居者は自由に生活出来るように、環境を整えている。マニュアルも作成しており、各棟でいつでも見れるようにしている。 (外部評価) 職員は身体拘束の対象となる行為を正しく理解しており、利用者の人権を守りながら自由でのびやかな暮らしが送れるよう支援している。また、言葉での拘束についても、職員全員で意識しながら適切な対応ができるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員会、カンファレンスで、入居者に対しての言葉使いや、介護態度について、いつも話し合っている。心理的虐待にならないように防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加し勉強会を行っている。家族からの要請がある時は、管理者が対応を行っているが、職員も理解できるように説明を行っている。今後必要時は、関係機関との連携を図って行きたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、契約書の説明を行っている。事業所のケアに関する取り組み、利用料金、起こりうるリスク、看取りに関する事など医療連携体制についても、説明をおこない、同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居者は、日頃のケアのなかで、意見を聴いている、家族は、面会時を利用して、意見、要望を聴いている。家族会も行い、会議の中で意見、要望を聴いている。各棟、玄関先に意見箱を設置し、投稿して貰うようにしている。 (外部評価) 運営推進会議や家族会で意見や要望を出してもらったり、家族の面会時等に意見を聞き取るよう努めている。遠方に住んでいる家族には介護計画やゆうなぎ通信を定期的に送る際に、一緒に意見や要望を記入できる用紙を同封している。利用者のささやかな希望にも対応するよう心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者は、職員会、カンファレンス時に意見や提案を聴きようにしている。職員からアンケートを取り、意見、提案、要望を聴くようにしている。代表者を交えて、食事会をする機会はあるが、職員との関わりの機会が少ない。 (外部評価) 日々の中で気が付いたことは、各ユニットの主任を通じて管理者に伝わる仕組みになっている。管理者は日々のケアに携わっており、職員とコミュニケーションがよく取れている。外部で行われる研修会等には可能な限り参加できるよう調整している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 希望休、有給休暇、時間外手当の支給はある。資格取得に向けた支援はおこなっている。休憩室を設け、休憩時間にゆくり休める体制を整えている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員の力量に応じて、研修を受講できるようにしている。研修後は、報告書を提出し、職員会議で発表し、職員全員が勉強出来る体制を整えている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 代表者は機会が少ないが、管理者は、交流の機会があり行っている。GH連絡会に参加し、意見交換、勉強会をおこなっている(運動会・認知症講演会・勉強会)。また、他の市町村の同業者との連絡も時々行い、情報交換を行っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前には、自宅、病院等に事前調査に面談している。本人の生活状況、身体状況、服薬等、家族関係など細かく、本人、家族に聴きとり情報を得ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前には、本人、家族の思いが分かるように、センター方式のアセスメントを渡し記入して頂く家族もある。記入出来ない家族は、管理者が、聴きとりを行い、本人、家族の要望を聴いている。職員にも、情報を伝え、事前に話し合っている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入所前には、居宅のケアマネからの情報を聴いたり、本人、家族の思い、出来ること、出来ない事、好きなこと、好きな食べ物など、馴染みの事など、いろいろ聴きとり、必要なサービスに繋げるようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 入居者のペース、状態に合わせてお互い出来ること、出来ない事、好きなことを把握し、笑顔で穏やかに生活出来るように関わりを築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月、おたよりを出したり、面会時には、本人の状況を伝えたり、介護記録を見て頂いている。面会時は、お部屋で、ゆっくり、自由に話し過ごして貰うことで、本人を支えて行くための、関係を築くようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 親戚の方や、知人が面会に来られ、自由に過ごされている。馴染みの美容院に行かれたり、お墓参りに行かれる方もおられる。家族と敬老会に参加されたり、自宅に帰ったり、外出される方もある。 (外部評価) 地域の敬老会に参加したり、馴染みの美容室へ家族の協力を得ながら通う等、馴染みの人や場所との関係が継続できるよう支援している。また、併設のデイサービスや近くの保育所等との交流を積極的に行い、新たな馴染みができるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の顔馴染みの関係は出来ており、仲良く、自由に過ごされている。個人の性格を考慮し、利用者同士の関係がうまくいくように、職員が調整役となっている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じて相談あれば、家族と連絡している。年賀状、暑中見舞い、行事の招待状を送っている。推進委員の協力をお願いし継続して参加して頂いている方もある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) センター方式の「私の姿と気持ちシート」を利用し、本人の不安、苦痛、嬉しい事、願い事を記入し、本人の思いを知ろうと努めている。意思疎通困難な方の場合は職員本意にならないように努めて対応している。	
			(外部評価) 利用者に関わる時間を大切にし、一人ひとりに向き合いながら思いや希望を聞き取っている。把握した内容は申し送りノートに記入して、職員間で共有している。また、面会時に家族から聞き取りをする等より多くの情報を収集し、利用者本位のサービスが提供できるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時、今までの生活状況等を、本人、家族より聴きとったり、ケアマネより情報収集している。自分が使っていた馴染の物を持って来て頂いている方もある。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 入居者一人一人の健康管理、生活リズムを理解し安全に生活出来るように努めている。気づきノート、申し送りノート活用し、職員全体で把握できるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人、家族には、日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、くみ取るようにしている。定期的にカンファレンスを行い、現状の課題、ケアについて話し合い、意見交換を行っている。家族とは、更新時期には、面談し意向を聴き反映している。 (外部評価) 利用者や家族の意向を聞き、きめ細やかなアセスメントをし、担当職員を中心に意見を出し合い介護計画を作成している。作成した介護計画は、家族に説明し同意を得ている。毎月のカンファレンスで状況確認するとともに、利用者の状態に応じて計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日計画書に添った、介護記録を個別に取り、日頃の暮らしの様子、身体状況及び、本人の言葉、楽しかった事、エピソード等を記録するようにしている。定期的、状態変化時介護計画の見直しを行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人、家族の状況の応じて、通院、送迎など必要な支援は柔軟に対応している。家族への食事提供、入居者の、外部の方による、マッサージも行っている方もある。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の方との交流があり、顔馴染みの関係が出来ているので、無断外出されいている、入居者さんにも、声をかけて連絡して貰ったり、連れて来て頂くこともある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医があり、体調に応じて受診、往診を受け ている。また、家族の希望する他の医療機関に受診し たり、病状に応じた、専門医に受診している。 (外部評価) 入居以前からのかかりつけ医や希望の病院が受診でき るようにしている。受診介助は、職員が行っており、 必要に応じて家族にも同行してもらっている。協力医 による定期的な往診や、専門医への受診等、適切な医 療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 協力医療機関の看護師に、毎週健康管理(バイタル チェック・血糖値測定・必要に応じて点滴等)、医療 面での相談、助言、医師との連携など、対応してい る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、たびたび面会に行きようにし、本人の状 態を看ている。入退院時には、医療機関との情報提供 を細かく行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時に、施設の方針を説明し、同意を得ているが、 重度化した場合は、再度、本人、家族、医師、職員が 連携を図り安心して終末期を迎えられるように職員との 話し合いも行い取り組んでいる。昨年、今年にかけて 二人看取りを行った。 (外部評価) 入居時に看取りに関する指針に基づいて説明してい る。マニュアルを整備し、協力医や関係機関との医療 連携体制を整えている。状態変化時には、あらためて 家族と話し合いの機会を持ち意向を確認しながら、利 用者本位の支援に取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 年に1回全職員が、救命救急法を受講している。緊急時対応マニュアル、連絡網を作り、各棟に掲示して対応出来るように、周知徹底を図っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に防災訓練を実施している。地域の方、消防署、運営推進委員との訓練も行った。昼夜を問わず、施設内の点検を行っている。職員全員で訓練できるように取り組んでいる。 (外部評価) 消防署の協力を得て、年2回の防災避難訓練を実施している。運営推進会議を活用して地域の消防団や地域の人達と共に訓練を実施できるよう協力体制を築いている。災害時のマニュアルの整備や備蓄品を確保する等、非常災害対策の強化を推進中である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人一人の性格や個性に合わせて、プライドを傷つけないような言葉かけや、対応をしている。その人に合った声のトーン、優しいことばかけ、さりげない介助に心掛けている。 (外部評価) 職員は言葉遣いや声の大きさ等に配慮している。一人ひとりの利用者の人格を尊重し、特に排泄や入浴時には誇りやプライバシーを損なう事がないよう配慮しながら、日々のケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で、(レク参加、行事、入浴・食事等)一人一人に声かけ、無理強いせず、自己決定出来るように声かけ支援している。難聴の方ひは、ボードを使用し決めて貰うこともある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ホームでの一日の流れは決まっているが、一人一人、起床時間、食事時間など、体調に配慮しながら、その日の本人の気持ちを尊重し支援している。日中、部屋で過したい方は、自由に過して貰うようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 希望に応じて、行きつけの美容室に行き、パーマ、毛染めをされている。美容室に行かない入居者はホームで行っている。髭剃り、爪切、出来ない方は介助している。洋服を選べない方もあるが、その人に合った、洋服をきて貰うようにおしゃれをして貰っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員と、入居者が同じテーブルを囲んで話しながら食事をしている。(介助の方もいる) ホームで作った野菜を収穫し食べたり、誕生日には、本人の好きな物を食べて貰ったり、外食時は、好きなメニューを注文されている。出来る方は、食事準備、片づけを職員と一緒に手伝って貰っている。 (外部評価) 利用者同志の会話もはずみ、職員と共にテーブルを囲んで楽しく食事ができている。支援の必要な利用者の横に職員がさりげなく座り、優しく声かけをしながら介助がされている。外食等も企画され、利用者の楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 各自の健康状態を考慮して、食事量、薄味(減塩)、刻み食、トロミ(水分)を使い工夫している。食事摂取量、水分量、は個別に記録している。本人が好きな飲み物は、個人で買われている方もいる。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行い、本人の能力に応じて介助している。歯冠ブラシ、スポンジなど本人に状態に応じた物を使用している。週に1～2回ポリデントを使用している。夜間時は、殆ど方は外して休んでもらうようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日中はトイレに排泄を促すことを基本としている。排泄チェック表を利用し、一人一人の排泄パターンに合わせて、声かけ、誘導している。夜間時は、必要に応じて、オムツ、ポータブル、尿器を使用したり、トイレ誘導を行っている。	
			(外部評価) 排泄チェック表を活用しながら、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない声かけで誘導している。日中はトイレでの排泄を基本に支援している。家族と協力しながら利用者に応じた支援を行うことができている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) なるべく乳製品や、食物繊維の物を多く摂ってもらうようにしている。毎日体操、散歩を行っているが、排便が困難な方は、主治医に相談している。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴は、毎日午後から行っているが、体調、入浴の希望を確認し、一人ずつゆっくり入浴して貰っている。一人で入りたい方は、外で見守りすることもある。	
			(外部評価) 毎日入浴できるようにしており、利用者の希望に応じて気持ちよく入浴ができるよう努めている。入浴の苦手な利用者には、声かけやタイミングを工夫し、無理強いをすることなく心地よい入浴ができるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日々の睡眠状態を把握し、レク、散歩、手作業い参加して貰ったり、生活リズムを整えるように努めている。入居者の意向や健康状態に合わせて、日中休んで貰ったりしている。	
			(外部評価)	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 各自の薬の処方箋があり、用途や、副作用を理解している。いつでも職員が見れるようにしている。病状変化があった場合、主治医との連携を図って相談している。薬変更時は、申し送りに記入し共有している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その人に応じて、手伝いして貰ったり、カラオケをしたり、ゲーム参加や皆で歌を唄って日中楽しく過して貰うようにしているが、健康状態に応じては、参加されない方もある。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ドライブ、お花見、外食、七夕見学等に出かけたり、毎日、買い物に行かれている。家族の協力を得て、外出される方もある。	
			(外部評価) 事業所の敷地が広く周囲には緑が多いため、日光浴や気分転換ができる。職員は利用者と共に食材の買い出しに出かけたり、利用者の希望を取り入れながら外食やドライブ等を日常的に行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の管理が出来る方は自分で所持されている。使われなくても安心されている為持っておられる。殆どの方は、家族と相談し、ホームで預かっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 職員が年賀状、暑中見舞いを用意し、一言書かれる方もある。手紙は殆ど書かれ無くなっている。電話をかけたり、かかってきた場合は話しされている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 食堂内の壁には、季節に応じた飾りをつけ、写真を飾っている。玄関先には、季節の花、野菜を植えたり、花を生け飾っている。場所が分かるように、表示をしている。（食堂・居室・トイレ・浴室・エレベーター等）	
			(外部評価) 居間にはソファを置き自由にくつろぐことができる。室内の明るさや温度等、適切に保たれ、利用者は落ち着いた環境で過ごすことができている。壁には、季節感のある飾り付けや、行事等の写真が展示され、居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 廊下、玄関先には、自由に座れるベンチ、椅子を置いている。食堂内は少し狭いが、皆が座れるように、ソファを置き、話しが出来るようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には、馴染みの家具、テレビ、ラジオ、コタツ、タンスを満ち込まれている方もおられる。居心地良く過して貰えるように、本人、家族の写真、塗り絵を飾ったりしている。居室のベランダで、花の水やりされている方もある	
			(外部評価) それぞれ使い慣れた馴染みの家具等が持ち込まれ、家族と一緒に過ごした懐かしい思い出の写真や花が飾られており、利用者が落ち着いて生活できるよう配慮されている。広さも十分あり、居心地よく過ごせる部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 各自に応じて、老人車、杖、車椅子、歩行器を使用されている。身体状況に合わせて、ベッドや、ポータブルの設置を検討している。ベッドでの習慣が無い方、転倒防止の為、床で休んで貰ったりする方もある。階段はあるが、手すりも設置しており、段差も無くしている。安全で出来るだけ、自立に向けた生活が維持できるように努めている。	